

令和 2 年 6 月 29 日

生徒指導通信

NO. 5

ACTION

日光中学校 HP



以前、いじめをなくすための講演会に参加したことがあります。そのときの基調講演は、情熱大陸やほんまでっか TV 等に出演されている脳科学者の中野信子先生によるものでした。「ねたみ」と「嫉妬」は違う感情である。人には「ねたみ」の感情があるのは仕方ない。といったことを踏まえた上で、中野先生からのいじめをなくしていくための提言を御紹介いたします。

「忘れる力」を身につける

「あの時こうされたから、こんなことがあったから復讐してやる」と考えてしまうと、いつになっても「恨みの感情」は残ってしまいます。それぞれが抱く負の感情をうまく昇華できれば良いのですが、誰もがそうできるとは限りません。消極的な対応かもしれませんが、物事自体を上手に「忘れる力」を身につけられるとよいとのことです。

「スルーする力」を身につける

周囲とうまくあわせられない人に対する感情を「ああいう人もいるね」とか「そういう人がいても自分の取り分は変わらない」といった寛容な形で受け流せるようにコントロールできるのが大切だということです。「ルール」は集団力を高めますが、均一であることを強要しない「スルーする力」を身につけられるといじめも減るのではないかということです。

「いい加減である力」を身につける

規範意識として「こうでなければならない」と思いがちです。しかし、異文化では決してそうではないことも多いのです。自分だけの価値観に「いい加減である」ことによって、さまざまな価値観を知る機会をつくることができ、多様な価値に触れることができます。また、価値観の違う相手の気持ちや想いに寄り添うことができることで「いじめのない合理的な判断」ができるようになるということです。

中野信子先生の話は、多岐にわたった視点から論理的で興味深いものでした。私自身、日頃の教育活動と照らし合わせ、自分を振り返る良い機会となりました。今後、職員間での共通理解を図り、積極的に提言の実現に向け、さらに努力したいと決意を新たにしました。

【保護者からの返信をいただきました。裏面へ掲載させていただきます。ありがとうございました。】

.....キ.....リ.....ト.....リ.....
【返信欄】